

教科名	社会科	校 種	中学校
-----	-----	-----	-----

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など，授業の形態
1 年	社会（地理）	必	3	
2 年	社会（歴史）	必	3	
3 年	社会（歴史・公民）	必	4	

科目名（教科名）		中学社会・地理的分野（社会科）				
学年		1	単位数	3	必修・選択・展開	必修
目的		1. 世界及び日本地理の基本的知識を学ぶ。すなわち社会生活に必要な地理知識（各国・各地の特徴・生産物・自然環境など）をしっかりと知り、高校以降の学習に繋がる学術的知識を得る。 2. 地理を通して、国内外の社会的問題を考える。とりわけ、戦争・国家間対立、環境、途上国と先進国との経済格差など、現代および将来の世界の根源的な問題について考える。 3. 自ら地理に関する課題を探究していく作業において、課題解決に向けての調査・考察の適切な方法を学び、十分に検討を行った上で、答えを導き出す力を身につける。				
学 期		授 業 の 項 目			内 容	
1 学期		・世界の諸地域 アジア、ヨーロッパ、アフリカ ・世界と日本の地域構成 ・世界の姿、日本の姿 ・世界のさまざまな地域 ・人々の生活と環境 自然環境・衣食住・宗教			・地球儀・世界地図の見方を学ぶ。また特徴ある国々を知る。 ・世界の中での日本の地理的特色を学ぶ。 ・世界の地形、気候、生活文化、宗教を理解する。 ・世界の国々について、各地域別（アジア・ヨーロッパ・アフリカ）に学ぶ。自然環境、産業、観光地、日本との関係などを関連させて理解する。	
2 学期		・世界の諸地域（続き） 南北アメリカ、オセアニア ・日本のさまざまな地域 ・身近な地域の調査 ・日本の地域的特色 ・日本の諸地域 九州地方、中四国地方、近畿地方、中部地方			・世界の国々について、各地域別（南北アメリカ、オセアニア）に学ぶ。自然環境、産業、観光地、日本との関係などを関連させて理解する。 ・身近な地域の地域調査を通して、地域の課題を見つける。 ・世界の中での日本の自然環境や産業の特徴を理解する。また関連地域を通して過疎・過密、環境保全などの問題を学ぶ。 ・日本を各地域別に学ぶ（九州・中四国・近畿・中部）。各地の自然環境、生産物、観光地などを相互に関連付けつつ知識と理解を深める。	
3 学期		・日本のさまざまな地域（続き） 関東地方、東北地方、北海道地方			・日本を各地域別に学ぶ（関東・東北・北海道）。 ※詳細は2学期に同じ ※上記授業計画は、授業展開の都合や生徒の状況から変更する場合がある。	
評価の観点		【知識・技能】	中学生として身につけておくべき知識や情報、その学習方法をどれくらい習得しているか。			・定期試験 空欄補充・正誤判断など 語句説明問題
		【思考・判断力・表現】	知識や情報を単なる記憶ではなく理解しているか、知識や情報を活用できるか、その内容を表現できるか。			・定期試験の問題 意見記述・文章読解・論述問題 ・日々のプリントでのワーク
		【主体的に学習に取り組む態度】	課題の提出状況、授業中の質疑応答に前向きに対応するか、知識や情報をヒントにあらたなテーマに興味・関心をもつか。			・ノート作り ・授業参加・課題提出
評価の方法と割合		● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物、授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 約60 % 平常点 約40 %				
教科書・副教材等		● 教科書：「中学生の地理 世界の姿と日本の国土」（帝国書院）・「中学社会科地図」（同左） ● 問題集：「ワーク地理Ⅰ・Ⅱ（帝国書院版）」 ● 副教材：「アクティブ地理」（浜島書店）				

科目名（教科名）	中学社会・歴史的分野（社会科）				
学年	2	単位数	3	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 日本・世界の過去に起こった事象をその関係性に焦点を当て、正しく把握する。
2. 歴史的事象を機械的に暗記するのではなく、なぜそのような事件が起こったのか、その結果どうなったのかを結びつけることによって理解する。
3. 歴史が現代世界を作り上げ、また自らも歴史を形成する主体であることを意識できるようにする。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	歴史を学ぶにあたって 原始・古代の日本と世界		・ 導入 ・ 人類の出現と文明のおこり ・ 日本の成り立ちと倭の王権 ・ 大帝国の出現と律令国家の形成 ・ 貴族社会の発展～武家社会のはじまり
2 学期	中世の日本と世界 近世の日本と世界 近代の幕開け		・ 揺れ動く武家政治と社会 ・ 結びつく世界との出会い ・ 天下統一への歩み ・ 幕藩体制の確立と鎖国 ・ 幕政の改革 ・ 近代世界の確立とアジア～開国・幕政崩壊
3 学期	近代の日本と世界		・ 明治維新と立憲国家への歩み ・ 激動する東アジアと日清・日露戦争 ・ 近代の産業と文化の発展 ・ 第一次大戦前後の社会と日本の拡大 ※3学期中に終わらない内容が出た場合は、中3で継続して学習する。また、上記授業計画については変更する場合がある。
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	中学生として身につけておくべき知識や情報、その学習方法をどれくらい習得しているか。	・ 定期試験の知識問題 - 空欄補充・正誤判断など
	【思考・判断力・表現】 (30%)	知識や情報を単なる記憶ではなく理解しているか、知識や情報を活用できるか、その内容を表現できるか。	・ 定期試験の思考問題 - 意見記述問題・文章読解問題・語句説明問題・論述問題 ・ レポート・発表
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	宿題やレポートの提出状況、授業中の質疑応答に前向きに対応するか、知識や情報をヒントにあらたなテーマに興味・関心をもつか。	・ 振り返り ・ 小テスト ・ 授業態度・課題提出 ・ 提出物の欄外記入量
評価の 方法と 割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 60% + 平常点 40%		
教科書・ 副教材等	● 教科書：「中学社会 歴史 未来をひらく」教育出版 ● 副教材：「ビジュアル歴史」とうほう ● 問題集：「ワーク歴史Ⅰ・Ⅱ」		

科目名（教科名）		中学社会・歴史的分野 公民的分野（社会科）			
学年	3	単位数	4	必修・選択・展開	必修
目的	【歴史的分野】 1. 中学歴史の続きを学ぶ。現代史を公民分野の前提として理解する。 【公民的分野】 1. 現代社会における様々な課題の根本を主体的に捉え、総合的な思考で理解する。 2. 自らの「公民」として使命を自覚し、社会において積極的に意見を出し行動する人間を目指す。 3. 現代社会に関する課題を探究していく中で、課題に向きあう考察の方法を学び、十分に検討を行った上で、答えを導き出す力を身につける。				
	学 期	授 業 の 項 目		内 容	
1 学 期	【中2歴史の続き】 【公民的分野】 私たちの暮らしと現代社会		・日本の産業革命～第二次世界大戦～現代まで ・私たちが生きる現代社会・世界の特色 ・現代社会・文化をとらえる見方や考え方		
2 学 期	個人を尊重する日本国憲法 私たちの暮らしと民主政治 私たちの暮らしと経済		・現代社会を生きるには ・個人の尊重と日本国憲法 ・国民主権と日本の政治 ・三権分立のしくみと政治参加 ・消費生活と経済のしくみ ・企業の生産のしくみと労働 ・働く意味と雇用のあり方 ・金融のしくみとお金の価値		
3 学 期	安心して豊かに暮らせる社会 国際社会に生きる私たち 私たちが未来の社会を		・暮らしを支える社会保障制度 ・これからの日本経済の課題 ・国際社会の課題と私たちの取り組み ・持続可能な未来の社会		
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	・年間5回行われる定期試験でいかに解けているかなど。		・定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断	
	【思考・判断力・ 表現】 (30%)	・レポートなどの提出課題に書かれた感想など。		・定期試験の思考問題 (例) 意見記述、語句説明、論述問題 ・レポート、発表 ・話し合い、作品制作、実技テスト	
	【主体的に学習 に取り組む態度】 (30%)	・授業中の積極的な発言や質問、レポート等で自ら進んで課題を設定できているかなど。		・振り返り ・小テスト・ノート作り ・授業態度・課題提出	
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 60 % 平常点 40 %				
教科書・ 副教材等	【歴史分野】 ● 教科書 : 「中学社会 歴史 未来をひらく」 (教育出版) ● 問題集 : 「ワーク歴史Ⅱ」 (教育出版) ● 副教材 : 「ビジュアル歴史」 (とうほう) 【公民分野】 ● 教科書 : 「中学社会 公民 とともに生きる」 (教育出版) ● 副教材 : 「新しい公民」 (浜島書店) ● 問題集 : 「定期テスト対策 ワーク中3」 (教育出版)				